

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆうべつこどもスペース ばすてる（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～ 令和7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22家庭配布	(回答者数) 14家庭
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～ 令和7年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちやご家族に寄り添い、受容共感し、愛情を持って励ますことを関わりを中心としている。その為利用児やご家族が安心して通うことに繋がっている。	一人一人に合った期待値を設定し、支援計画を立てている。 事業所の基本方針として、子どもたちやご家族に寄り添い、受容共感し、愛情を持って励ますことを掲げている。定期的に読み合わせをし、職員全体で支援方針を確認した上で支援にあたっている。	事業所だけでなく、この方針を関係機関、保育所や町にも伝え、地域全体で同じ考えのもと利用児やご家族を支えていく。
2	適切な支援の提供。 コモンセンスペアレンティングを取り入れ、将来社会で関わる人たちと良好な関係を築くことができるようになるために必要な基礎的な社会スキルを教え、練習する機会をつくっている。	個別支援計画を作成し、定期的に会議を持ち、アセスメントを行い、計画の見直しを図り、それぞれの期待値にあった目標を設定している。決めた目標は、日常的に支援に取り入れ、利用児がスキルを取得できるようサポートしている。	アセスメントの方法や使用するツールの見直しを図り、更に子どもたちの実態をしっかり把握したうえで、適切な支援を目指していく。
3	職員の育成。コモンセンスペアレンティングの考えのもと、関わりを統一した支援を行っている。 職員の支援スキル向上のための研修の実施や学びの機会を確保している。	月1回以上の研修を実施し同じ学びを得ている。 定期的に職員間で面談を実施。情報共有や支援の相談ができる体制を構築している。	今後も継続し、職員の育成に力をいれ、どの職員が対応しても同じ関わりができるように学びを更に強化していく。 定期的な職員面談も継続して実施し、働きやすい、相談しやすい職場作りも目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境・設備の充実化が不足している。	個別対応ができる部屋が足りていない。ホールが1つ、活動部屋が1つ、個室が1つのため、個別対応が必要な場合でもその対応ができないことが多々ある。そのため、子どもたちがすぐに落ち着く事が難しくかったり、周囲の影響を受けさらに不調になってしまうことも多くみられる。	いまある設備を工夫し、子どもたちが安心安全のもと利用できるように環境を整えていく。
2	SNSやホームページの活用ができていない。	ホームページ、SNS等を使い、保護者や地域への発信が出来ていない。紙媒体のみで発信しているため、すぐに保護者に伝わらないことがある。	ホームページやマチコアプリを活用し、どこにいてもいつでも情報提供できる環境を整える。活用することで発信できる情報量が増えることが期待できる。事業所やお子さんの成長について知って頂くことができる。
3	地域・こども園との交流ができていない。	地域との交流の場を作れていないため、こども園での様子や地域の子どもの実態が把握できていない。 職員体制やプライバシーポリシーの観点を踏まえた交流の機会の持ち方を検討していく必要がある。	地域の人達やこども園と、どのような形で交流を図っていくか検討が必要。 湧別町文化センターさざ波への作品展示やオホーツク・リラ街道の花壇整備事業を通して、事業所の取り組みを知ってもらう機会にはなっているが、直接の交流は少ないのが現状。 開かれた事業所作りをし、地域の人達に興味をもってもらえる仕組みを作っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ゆうべつこどもスペース ばすてる

公表日 2026年 3月 30日

利用児童数 22名

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12			2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	1				
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	2			もっと機会が増えたら良いなと思います。	地域との交流の場や方法については関係機関と検討をしています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	11	2		1	ばすてる祭りとても楽しかったです。	家族参加型のばすてる祭りには、沢山のきょうだいの方にも参加して頂きました。今後はきょうだい同士の交流の機会が持てる行事開催を検討していきます。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1		3	入所時の説明で聞いたような気もしますが、どうだったのか忘れてしまいました。	契約時の説明だけでなく、必要に応じて繰り返し周知していくことと、訓練を実施した後はその様子もお伝えできるように検討していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1		3	避難訓練をしているというのは説明で聞いたような気もします。	通信や予定表にて事前の周知と実施結果をお伝えします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14				毎回楽しみにしています！	子どもたちが安心安全のもと、楽しく通うことができるように環境整備や支援計画は随時検討、見直しを図ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14				感謝しています。	支援体制や内容は随時検討し、それぞれのお子さんにあった支援を提供できるように心がけて参ります。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ゆうべつこどもスペース ばすてる
------	------------------

公表日 2026年 3月 30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		3	活動ごとに場所を分け対応している 安心して過ごせるよう図書館の視聴覚室を借りるなどして、環境整備を行っている	個室がもう1つあると支援が充実するが、図書館の建物を利用しているため難しい現状がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2		利用ニーズが増えているため、職員数の増加が望まれる。 職員が増えるとより丁寧に対応することができる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	体を動かすホールでは、怪我防止のためソフトマットを敷いている。	既存の建物をそのまま使っているためバリアフリー化が出来ていない箇所がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	1		全ての部屋を支援で使用しているため、必要な時に子どもたちが自由に使える状況にないことがある。そのため、子どもたちの感情が高まってしまった時に、落ち着くスペースを確保することが難しい時もある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	年に1回評価を実施し、ホームページに掲載している。職員全体に周知している。	保護者からのご意見に対し、検討、改善出来ない部分もあるため、次年度に向けて見直ししていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	会議や定期的な面談を通して日頃の振り返りや気になること相談したいことの確認している。	定期的な面談で支援に対する意見や相談は聞いているが、業務や働き方については十分に把握できているとは言えない。 職員とは今後も定期的に面談を行い、話を聞く機会を設けていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1		より支援に活かすことのできるアセスメントツールの見直しが必要。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		机上で行う活動は固定化し提供しているが、全く同じものにならないように配慮している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1		送迎支援があり、支援終了時に打ち合わせをする時間がもてていない。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	1		学校側に求められた場合のみで、事業所で把握している情報を引き継いでいないことがある。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		3			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	1			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3					
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3					
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3					
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3					
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3					

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	1		きょうだいを対象にした行事はできていないため今後検討が必要だが、家族行事にきょうだいも参加してくれることもある。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		予定表に連絡事項や注意事項を記載して伝えている。	令和8年度は、マチコミアプリを活用して、血清連絡や活動の様子等を発信して参ります。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	1			プライバシー保護の観点から難しいこともあるが、地域の方にとって頂ける事業所作りを検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1	2	火災や津波等、色々な災害を想定したマニュアルを作り確認をしている。	マニュアルはあるが、職員の体制上、児童発達支援対象児童は、実際に避難する訓練ができていないため実際場を想定した訓練を検討していく。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		安全計画を立て、保護者には予定表を通じて周知している。	職員にも予定表を通じて周知しているが、研修や訓練は十分とは言えない。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3				
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3					
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3					